

俺とブラック
コーヒー

book-fukunokami

俺とブラックコーヒー

「俺もブラックコーヒーを飲むんだ」

俺は喫茶店で叫んだ。

その喫茶店には黒い犬ブラックドッグがいた。

ブラックドッグは、ワン、と叫んだ。

「はい、ブラックコーヒーですね」

喫茶店のマスターが叫んだ。

どうやら俺につられて叫んだらしい。

「はい、どうぞ」

マスターが叫びながらブラックコーヒーと砂糖とミルクを持ってきた。

「マスター、ブラックコーヒーを頼んだのだが、なぜ、砂糖とミルクがついてるんだ」

「はい、すいません、いつものクセで、なにしろうちはブラックコーヒを注文する客がいなくて、なんとお客さまが初めてなのです、し

かし、ブラックの珈琲だからミルクはともかく砂糖はよろしいのではないのでしょうか、いかがでしょうか」

「はっ、砂糖はブラックコーヒーなのだろうか、違うのだろうか」

俺は叫び迷ったのであった。

黒い犬は、ワン、と鳴いた。